

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<b>令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会 会議録</b>			
日時	令和7年11月4日（火）10時00分～12時00分		
場所	弘前図書館2階 視聴覚室	傍聴者	0人
出席者	委員長 藤田 晴央 副委員長 井上 諭一 委員 浅瀬石 久仁子 委員 宮崎 新 委員 桶田 久美子 委員 佐々木 隆		
欠席者	委員 帆苺 基生 委員 北向 真衣		
事務局側出席者	郷土文学館館長 小田桐 康眞 郷土文学館企画研究専門員 櫛引 洋一 弘前市教育委員会生涯学習課長 中川 元伸 弘前市教育委員会生涯学習課主査 坂崎 春子 図書館・郷土文学館運営推進室長 高橋 貢 図書館・郷土文学館運営推進室主事 福原 健		
会議の議題	(1) 郷土文学館運営委員会の趣旨及び役割等について (2) 指定管理者について (3) 令和7年度第1回運営委員会後に寄せられた意見等について (4) 議事 令和8年度弘前市立郷土文学館事業案について		
会議の結果	「会議の議題」に基づき説明し、委員からの質問や意見を伺った。		
会議資料	・資料1 郷土文学館運営委員会の趣旨及び役割等について ・資料2 指定管理者について ・資料3 令和7年度第1回運営委員会後に寄せられた意見等について ・資料4 令和8年度弘前市立郷土文学館事業案について		
会議内容	1 弘前市立郷土文学館運営委員会委員委嘱状交付式 2 組織会 … 委員長を藤田晴央委員、副委員長を井上諭一委員に決定 3 令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会 … 次のとおり		

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

司 会	<p>それでは、次第3、令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会に移ります。会議に先立ちまして、本日出席の事務局の紹介をいたします。</p> <p>( 事務局紹介 )</p>
司 会 館 長	<p>それでは小田桐郷土文学館館長から、ひとことごあいさつをお願いします。</p> <p>( あいさつ )</p>
司 会	<p>本日の運営委員会の終了時間は正午としております。簡潔な説明に努めますが、十分な質疑の時間がとれない場合は、お手元に配布しております、意見等記入用紙、こちらのほうにご記入いただき、後日ご回答させていただきますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。それでは会議に入ります。会議の議長は委員長が務めることとなっておりますので、以降の進行は委員長にお願いいたします。</p>
議 長	<p>それではしばらくの間、議長として進行させていただきます。会議の進行にご協力のほどよろしくお願いいたします。ただいまの出席委員は、さきほど申し上げましたとおり6人ということで、委員の半数以上のため本会議は成立しておりますので、さっそく会議に入りたいと思います。次第3の(4)、郷土文学館運営委員会の趣旨及び役割等について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事 務 局	<p>資料1をご覧ください。4項目ございますが、郷土文学館条例と併せてご覧ください。まず、1の趣旨ですが、これは、郷土文学館条例の第1条で文学館の設置及び管理運営に関して必要な事項を定めるというもので、管理運営に必要なものの1つとして運営委員会が設置されている、ということがございます。2の役割については、条例第12条にも記載されているとおり、郷土文学館における資料の収集や企画、運営について審議するものとなっております。3の委員構成及び4の委員の定数及び任期等につきましては、条例第13条と14条に記載がありますが、第13条に関しては今期は委員8名、うち(1)の文学に関する学識経験のある者として6名、(2)の公募による市民として2名の構成となっております。なお、弘前市附属機関の設置及び運営に関する指針に基づき、委員名簿につきましては、市ホームページに掲載することとなっております、お配りの名簿のとおり、その中に委員と委員長、副委員長と入るかたちとはなりますが、記載の上、掲載する予定となっております。また、同指針においては、このほかに会議は原則公開、会議記録は市のホームペ</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

事務局	<p>一ジに掲載することとなっております。なお、会議記録につきましては、皆様の発言を要約し、市のホームページに掲載したいと考えておりますが、委員名を掲載するのか、また公開用の記録内容の確認方法をどのようにするかなど、特に決まりがございませんので、条例の第17条に基づき、のちほど委員長にお諮りいたします。最後に、委員長と副委員長の互選の際にもご説明いたしましたが、会議につきましては条例第15条第2項に記載のとおり、運営委員会は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないことから、事前に日程の確認や調整はさせていただきますが、委員の皆様におかれましては、万障繰り合わせいただきご出席いただきますようよろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問、ご意見などはございますか。</p> <p>( なし )</p>
議長	<p>特にないようですので次に進みます。次第3の(5)、指定管理者について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料2をご覧ください。まず、1の概要です。指定管理者制度は(1)に記載のあるとおり、公の施設の管理に民間の能力を活用し、住民サービスの向上を図るとともに経費の節減等を図ることを目的とするものです。当市では相馬ライブラリーを除く、弘前市立図書館と弘前市立郷土文学館について、平成29年度から指定管理者制度を導入しております。次に、(2)の管理施設ですが、協定に基づき、ここに記載の4施設について一括して指定管理者に管理をお願いしております。(3)につきましては、現在の指定管理者は、TRC・アップルウェーブ・弘前ペンクラブ共同事業体であります。TRCは、株式会社図書館流通センターの略称であり、共同事業体の代表となっております。各団体の役割につきましては、TRCが1から3の図書館と分室、弘前ペンクラブが4の郷土文学館の管理運営を担っており、アップルウェーブ株式会社が図書館と郷土文学館の広報業務を担っております。(4)の指定管理の期間であります。現在、指定管理は2期目となっております。令和4年4月から令和9年3月末までの5年間となっております。(5)の指定管理者の選定方法ですが、これは公募となっております。次に、2の指定管理者が行っている業務内容について、資料に郷土文学館の管理業務基準書の抜粋を記載しております。弘前市立郷土文学館の業務内容と実施方法について定めたもので、利用者サービス業務や企画展等の企画業務について細かく定めております。</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

議 長	<p>今の説明についてなにかご意見、ご質問ありますか。私のほうから1つ、TRCというところはどのような組織なのか、例えば全国規模であるとか、教えていただけたらと思います。</p>
事 務 局	<p>株式会社図書館流通センターのスタートというのは、図書館カードをデジタルデータとして作成するということから始まった会社でございます。そこからさらに図書館に本を納入するというのがありまして、平成4年からこういった、全国の公立図書館の指定管理を受けている会社でございます。今現在で全国で約800ほどの公立図書館の受託をしておりまして、全国館長会というのをやるんですが、1つの大きい部屋に、図書館の館長が500人から600人集まるような会社でございます。実際、公立図書館の指定管理を受ける会社、同業者ライバルというのは他にもありますが、その中ではシェアが一番である会社でございます。</p>
議 長	<p>ありがとうございます。じゃあ、小田桐館長はTRCからの出向ですか。</p>
事 務 局	<p>そうですね、図書館流通センターの社員、私含め、図書館のスタッフですね。</p>
議 長	<p>ありがとうございます。ほかに質問、ご意見などありますかでしょうか。</p> <p>( なし )</p>
議 長	<p>ないようですので次に進みます。次第3の(6)、令和7年度第1回運営委員会後に寄せられた意見等について、事務局から報告と回答をお願いいたします。</p>
事 務 局	<p>資料3をご覧ください。令和7年度第1回運営委員会後に寄せられた意見等について、ということで3点寄せられております。1番については、文学館に各校の生徒会誌のコーナーを設けてはどうかというふうなご意見でしたが、当館で展示している佐藤紅緑、石坂洋次郎をはじめとして著名な文人については、かつて生徒だった頃に生徒会誌等に発表したものが残っております。そういったものとの関連の展示ってということが考えられますけれども、コーナーを設置ということまでになりますと、様々な課題を検討する必要があると考えております。それから2番についてですが、市内の書店、出版社のお話を聞く機会を設けてはどうかということですが、弘前市内には津軽書房とか北方新社とか、そういった優れた郷土出版を行ってきた出版社が現在も活動しております。それか</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

事務局	<p>ら書店としては古くからの黒滝書店とか、あるいは特色のあるまわりみち文庫とか、古書店では成田古書店など、そういったものがありますので、年間の中でそういったテーマを扱ったときには、ラウンジ企画の中などでお話いただく機会は設けることができると考えております。それから3番の、弘前の反体制の系譜について知る機会を設けてはどうかと。これは、反体制というのはいちよつとわかりづらかったんですが、具体的には佐藤紅緑の親戚に竹内兼七という人が明治期にいたんですが、当時、社会主義のほうに熱心でありまして、そういった人などもいるので、反体制の系譜を展示してはどうかというご提案でありましたが、竹内兼七のほかにも反体制という人は様々存在します。まったくの反体制ではありませんが、陸羯南もある意味で、時の政府に戦いを挑んだということで、ある意味で部分的に属することができますし、あるいは平田小六のようにプロレタリア文学といったことで扱うこともできますが、将来的に、反骨とかプロレタリア文学といった言葉を用いながら紹介していくということは、時期、タイミングが合えば、そういったテーマで展示することは可能であり、竹内兼七という無名の人物も含めることはできると思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。ただいまの回答についてご意見、ご質問ございますか。</p>
委員	<p>資料3の3番が、今ご説明いただいて大体わかったんですけど、系譜というところはどの程度まで現代に寄ってくるのかわからなくて。私なんかの世代というか研究の領域なんかからすると、弘前で反体制という、60年代から70年代ぐらいの、いわゆる全共闘の活動家の活動時期もすでに50年以上前だから、そういうところまで知る機会というかたちになっていくものなのかわからなかった。今のお話だと随分古い話ということになってくると思うんですけど、意見の趣旨はどこにあったのかということと、文学館がどのように考えるかということの2つ、情報があれば教えていただきたいと思うんですけども、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>反体制というテーマでの展示は今までなかったと思います。反体制という使い方ではないんですが、ルポライターの鎌田慧さんとかそういった人の展示などは行っており、主に当初は近代のあたりが中心であったんですが、その後、現代のほうにも時期を延ばして展示等はやったりしておりますので、そういったところまでも、場合によっては広げていけるところもあるのかなとは思っております。</p>
委員	<p>例えば体制だとか権力だとか、そういったものに対して批判的な面を</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>もって、正当に批判していくというのは、別に反体制とはいわないと思うんですね。だから、反体制の系譜というふうになってしまうと、むしろそういう違法、脱法的な部分まで含めてということになっちゃうと思うのでお伺いしたということです。</p>
議長	<p>ほかにご意見ございますか。</p>
委員	<p>反体制というと、一種の拒絶反応というか、思想統制みたいな。あぶり出しを行って借りる人は誰かみたいな、警戒心もありましたけれども。反体制の定義がよくわからなかったということです。歴史的に見ると宗教家とか哲学者というのは、あるがままの現状を肯定する人はほとんどいなくて、なにかしらの、ソクラテスからはじまって、疑問を呈するのはまともな作家であり、芸術家だと思うんですね。なにをアピールしたいのか、現状に対する疑問を持ってもらうために反体制という言葉を出されたのか、ちょっと目的がよくわからなかったの。僕としては入門書のコーナーというのをつくったらどうなのかなと思ったんです。なにを読んだらいいかわからないという学生も多かったの。政治、経済、文化、様々な。期間を決めてもいいですからコーナーをつくって、初めて来た人、あるいはこれを読んでみたいけど、どこから読んだらいいかわからないという人たちに提示したらどうかなと。そのほうが街に対して貢献が出てくるんじゃないかと。図書館という公的な機関ですから、社会に反体制でアピールするよりは入門書でアピールした方が役に立つような気がいたしました。</p>
議長	<p>ほかにご意見ございますか。</p>
委員	<p>1番の中に各校の生徒会誌というところで、今年、県立近代文学館で、高校の校歌を集めて校歌を紹介します、というので、学校の校歌の作詞家とか作家を紹介しているのがあったんですけど。なにがよかったかというと、高校のほうにポスターとかチラシがバンバン来て、すごい宣伝することができたんですね、高校で。チラシをつくるのがお金がかかるというのであればデータで送って、こちら側で印刷して貼るってこともできますので。高校でもこういう場に、ちょっとのぞいてみようみたいなきっかけにはなるし、我々も話しやすくなるので、つないでいけるものがあればなということで、また考えて行きたいなと思っていました。</p>
議長	<p>私も1人の委員として発言させてもらうと、今、おっしゃったようなことと関連しますが、生徒会誌だけでなく文学者のハイティーンの頃に書いたもの、それを特集をするような企画展なんか、若い人たちに</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

議	長	<p>来てもらうようにとてもよろしいんじゃないかなと思います。手前みそになってしまいますけれども、私、弘前高校の生徒会誌に詩を書いたり小説を書いたり、文芸部の部誌に福士幸次郎論を書いたりしておりました。大変稚拙なものですけれども、自分なりに瑞々しい時期だったなと思っております。太宰にしても寺山にしても、その頃とても鮮やかな新鮮なものを書いています。そういった切り口で生徒会誌も重点的に探ってみて、企画展の中に入れ込むというかたちで。レギュラーじゃなくても、若い心にターゲットを当てた企画というのもいいかなと、お話を聞きながら思った次第です。ほかになにかご意見とかありますか。</p>
委	員	<p>話を戻すみたいですけど、さきほどの3番の反体制のお話しますと、今はまだ取り上げるに早いと思っております。歴史的評価がある程度定まった段階のところであれば取り上げていけるかなとは思っているという話です。委員長のお話にくつつくようなかたちでいいますと、生徒会誌なんかもそうですけど、前にも申し上げたことあると思うんですが、例えば弘前出身のシンガーソングライターの方とかいらっしゃるわけですよ。シンガーソングライターの方というのは詩を自分でお書きになるわけで、詩の部分だけを取り出してみると、いわば文学作品なわけです。これはボブ・ディランがノーベル文学賞もらってるわけだから、世界的合意だというふうに思います。そうであれば、シンガーソングライターさんの詩も読めるけれども、そもそも音楽が聞ける設備はやっぱり大事だと。ここは視聴覚室なんだけれど、そういう感じになってないので、私としては、きちんと設備が整った、音のいいブースみたいなものなんかがいくつああって、ということをお夢想するわけなので。生徒会誌ということであれば、もう高校生のときからそういう活動している人はいるわけですから、そういうところまで含めて、今すぐじゃないにしても、遠い射程としては、そういったことを考えておくべきだというふうに思っています。</p>
議	長	<p>はい、わかりました。ほかにご意見は。</p>
委	員	<p>さきほどの反体制の系譜の部分なんですけど、やっぱり反体制という言葉が強すぎるんだと思うんですよ。例えば、さきほどのお話だったら、アニメーターの安彦良和さんなんかは、ベ平連運動に携わってやった方で。弘前との関わりでいけば、その部分がやっぱりクローズアップされるんでしょうけれども、大変著名なアニメーターになって、弘前にもゆかりがああって、というような方なので、反体制の運動だけを切り取ってしまってやると、なかなか弾かれてしまうような方になるのかもしれないですけども、時の権力に対してものをいったというような方を範</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>圏を広げて。今、安彦さんはこういう活動されてるとか、例えばそういうような部分があれば十分取り上げられる方だし、郷土文学館が集めたいと思うような方々にもアピールできるような人材もあると思うんですよ。なのでテーマの括り方なんだと思います。ここの部分でいえば竹内兼七さんという方も今ちょっとだけ興味がわいたところもあるので。この反体制の系譜というのが、おそらくすごく強いイメージを持たせるんだと思うので、ここの部分なんだと思います。</p>
議長	<p>ほかにございますか。</p>
委員	<p>さきほどおっしゃった、生徒会誌や文芸誌についての発言にくっついた発言になるんですが、先月の10月24日、青森県の高総文の県大会の文芸部門が百石町展示館で開かれまして、過去に全国高総文でやった、「二人のシュウジ」を取り上げて講演してほしいということで、まさに高校時代の寺山修司とか太宰治と同じように、今、目の前にいる文芸部員がなにかしたらというテーマでやったところ、結構参加者も40名から50名と多くて、生徒たちのワークショップも盛り上がって、文芸部員の交流ができて。最近、弘前高校も文芸部員が10名くらいになっているということで、生徒の文芸活動が学校によっては非常に盛んになっているということがわかり、その横のつながりがとれる場所みたいなものさえあれば生徒たちが記事をつくったり、文芸部誌も生徒会誌も各校、予算があってもつくる人がいないみたいな話も聞くんですけども、逆にしてくれる人材も育っているなど。弘前地区だけでもいいんですけども、文芸部の子たちが、年に1回でも2回でも郷土文学館に集まって、そういう文芸部を横につなぐ役割としての郷土文学館みたいな活動も、新しく取り入れられたら面白いのかなと。1番のご意見、各校の生徒会誌とありますけれども、文芸誌を集めながら、文芸誌のつくり方なんかをどなたかにレクチャーしていただくのに、2番の市内の出版社のお話なんかを聞きながら、この場で学校の予算を使って、文芸誌を高校生とか大学生がしてくれる機会みたいなのが提供できたら面白いのかなと、お話を伺いながら思いました。</p>
議長	<p>今のお話、まったく同感で、それにプラスして各高校の図書部の生徒さんたちも参加可能というかたちで、郷土文学館主催で定期的に、1年に1回でも2回でもいいですから集まっていただいて、核となって広がっていくようなものをつくってもいいんじゃないかな、私も聞いて思いました。</p>
委員	<p>今の最後のほうで、大学の話も出てきたので。私の知る限り、弘前大</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>学にも文芸部はあるんですね。弘前学院大学にも確か2つぐらい、たぶん、他の大学もあるはずなんだけど、横の連絡はたぶんないので、そこは背中を押してあげるような感じでやっていくといいんじゃないかと。それで、例えば高校生さんなんかと大学生さんなんかと一緒にそういうことをやるというのは非常に有意義なことだと思うので、それはぜひお考えいただければと思います。</p>
議長	<p>東北女子大学にも声をかけて、弘前全体の若い世代の文芸文学的なエネルギーというのを掘り起こして、さらに盛り上げていくというのはよいことかなと思いました。ほかになにかございますか。</p> <p>( なし )</p>
議長	<p>ないようですので、次第3の(7)の議事に進みます。令和8年度弘前市立郷土文学館事業案について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料の4をご覧ください。令和8年度弘前市立郷土文学館事業案について。1年間を会期とする企画展、節目の第50回を次年度迎えます。4月1日から翌年の3月21日まで。現在準備を進めていますのは、桜桃忌命名、今官一と太宰治、これは仮のタイトルであります、テーマとしては今官一に光を当てるということであります。今官一が昭和31年、1956年に作品集「壁の花」で直木賞、青森県初の直木賞を受賞して70年にちょうどなる年であります。ただ、今官一といきなり出しても、なかなか来館者はちょっと馴染みがないということなので、太宰治と同じ年に生まれ、太宰治の桜桃忌命名者であり、心の友、文学の友というところから入って行って。それを第1章として、第2章を今官一の作品の真価を伝えると、そういったことを考えて現在進めております。タイトルは今後また変わるかもしれませんが、今官一をテーマに、太宰治との絡みでということ準備しています。記念講演会もそのテーマに沿ったもので、今年度は秋にたまたま行いましたが、毎年8月の中旬から下旬にかけて行っていますので、次年度は8月22日の土曜日を予定しております。弘前市立観光館の多目的ホールです。それからスポット企画展というのは、ケース6つを使った春夏秋冬の季節ごとの展示であります、春の展示は写真で迎える太宰治「津軽」ということで、企画展との絡みであります、伊馬春部という太宰の友人と今官一の2人で桜桃忌を命名しましたので。その伊馬春部が太宰の「津軽」の地を昭和三十年代に迎って写した写真が残っております。その写真と太宰の「津軽」の文章を通して展示していきたいと考えています。それから夏場、山田スイッチですが、イラストと文章ということで、生誕50年の年に当たります。ま</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>事務局</p>	<p>だお元気でありますけれども、近年、例えば陸羯南の漫画の原画展とか、そういったものもやっておりまして、若い世代にやわらかい感じのものを、ということで夏に置きました。それから秋は、児童文学作家の鈴木喜代春。田舎館出身で「十三湖のばば」とか、そういった作品で知られていますが、没後10年となりますので。児童文学の分野、最近やっておりませんので、そちらのほうを秋にと考えております。それから、冬は新収蔵資料展と現在活躍中の作家展ということを考えておりますが、新収蔵については毎年、新しく入ってきたものなどを中心にしますので、まだテーマは定めておりません。続いてミニ企画、石坂洋次郎ですが、2階の石坂洋次郎記念室の入口、入ってすぐのところにケースが2つありますが、そこで半年に1回ずつテーマを変えて展示をしております。現在、石坂洋次郎と映画1、2というのを今年度行いましたが、非常に好評で、吉永小百合とか石原裕次郎とか、そういった人たちが出てくるスチール写真等も当館では所蔵していますので、そのシリーズで3、4と、次年度は進めていきたいと考えております。今、石坂洋次郎記念室は、作品はかなり古くなったといわれておりますが、奥のほうの映画のコーナーが非常に好評で、そこに昭和の時期が蘇る、あるいは戦後の復興、そういった新たなかたちで展示できるのではないかと考えています。2階のラウンジで行うラウンジ企画ですが、第3土曜日が北の文脈文学講座、それからラウンジのひとつは第1土曜日で、音楽とか朗読などを中心とした催しになっています。北の文脈文学講座については、8月のみ第4土曜日と書いていますが、これは8月の北の文脈文学講座は記念講演会と重なるということで、その記念講演に合わせて8月のみ第4土曜日ということを書いてあります。それからラウンジのひとつについては、近年、新しい方々が入ってきておりまして、koyomiさんという方とか、様々出演していただき、どんどん新しくなっております。続いて文学散歩ですが、これは年に1回、5月の第2土曜日に行っております。5月9日、テーマに合わせて、今官一ゆかりの地をテーマにして文学散歩を行う予定です。それから映画鑑賞は毎年11月3日の文化の日に行っておりまして、今年度につきましては昨日行って。現在展示している梅内美華子さん、渡邊新月さんという、角川短歌賞を受賞した人たちが所属している、歌林の会の代表の馬場あき子さん、戦後の歌壇を代表する歌人ですが、その方のドキュメンタリーの映画を昨日上映しましたが、50人満席ということで。短歌関係の方が多く訪れて、非常にアンケート見ても好評でありました。一昨年はサトウハチローにちなんでリンゴの唄の映画を上映して、テーマに合わせて上映会を開いております。それから、郷土文学館無料開放というのは、さきほどお話ありましたが、平成2年の7月1日に郷土文学館、開館しましたので、その7月1日を含め、そこから近い土日を無料開放にするということで催し物を持って</p>
------------	--

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

事務局	<p>おります。これは主に、普段文学館に来館することの少ない子供さんとか親御さん、そういった人向けの催しをやっております。クイズラリーとかいろんなものをつくって楽しむとか、そういったことをやっております。それから最後になりますが、文学忌。常設展示をしている10人に、やがては常設されるであろうという長部日出雄を加えて、その命日にロビー展示を行い、朗読を行って偲ぶ、というふうな会をやっております。当初はロビー展だけの静かなものであったんですが、林本さんという朗読家、非常に熱心な方が毎回ボランティアで朗読をしてくださって、朗読を通してその文人たちを偲ぶという、非常にいい会になっております。最初は2、3人であったんですが、最近、常時10人以上、先日は30人近く集まって、ということで、だんだん文学忌も定着してきております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問、ご意見ございますか。</p>
委員	<p>スポット企画展のところの現在活躍中の作家展とは、具体的にいうとどんな人ですか。</p>
事務局	<p>現在活躍中の作家とはいっていますが、文学に限らず文筆家ということで、例えば文芸評論家の三浦雅士さん、ルポライターの鎌田慧さん、山岳中心の記録作家というんですか、根深誠さんとか。あとは現在、北海道文学館の館長をされている、ロシア文学の工藤正廣さん。本県の弘前出身、津軽出身で、県外で活躍されている著名な方々です。最近まで古川智映子さんという方、弘前中央高校出身で90代ですが活躍されていたんですが、近年亡くなりましたので、その方は外れることとなりますが、今年度の展示はその古川さんの追悼を前面に。亡くなったということを知ってる方が随分少なくてですね、それを最初に置いて、さきほどの方たちを含め、いろいろ交代しながら展示しております。</p>
委員	<p>弘前はいわゆるライトノベルの関係者の非常に多く出るところで。有力な作家も何人もいますし、そのへんのことまで含めていただけると、若い人たちにもアピールできるかなと思います。弘前と、青森県がすごく多いんですね、有力な作家。それから漫画家とか漫画の原作者なんかも多いので。漫画とライトノベルは相互に入り組んで、それぞれ原作になったりしてるので、そういうところなんかも含めて、もしできるのであれば若い人に対して訴求力あるかなというふうに思って質問させていただきました。</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>ほかにご意見に関してありますか。希望とかそういうのでもかまわないと思います。まだお時間少しありますので、こんなふうにしたらいんじゃないかとか、なにかありますか。</p>
<p>委 員</p>	<p>毎年、北の文脈文学講座もラウンジのひとつもどんどん人気が出てきて、文学忌のほうで来館する方も増えて素晴らしい企画だなと思っております。今年、寺山修司を取り上げて来館者が増えたということで、来年度以降、文学忌に寺山修司を加えることはあるのかどうか。ただ、三沢でもこの日、修司忌をしますので、なかなかその兼ね合いもあって難しいかとは思いますが。例えば、長部日出雄さんであるとか、コーナーはないけれども文学忌に名前を連ねている方がいらっしゃるし、詩人の泉谷明さん、山田尚さん、内海先生は、まだまだ研究は進んではないですし、大きい文学忌ではないんですけども、この郷土文学館の設立にも尽力されて。全国的なご活躍もされている詩人などの、プチ文学忌でもないけれど、なにか悼む、詩の朗読みたいのも命日にあってもいいのなど。無料にしないでいいんですけども、開館35年で、この文学館自体がずいぶん長い年月を経てきたので、先人たちにそういう敬意を払うようななにか、具体的に思いつかないんですけども、せめてお命日に詩を朗読するみたいな会があればいいのかなと思いました。</p>
<p>議 長</p>	<p>ほかになにか。</p>
<p>委 員</p>	<p>図書館でなにか特集やっても、こちらに来るように方向づけられていないんじゃないかなと。要するに文学館で話を聞いて、あるいは見て、図書館に借りに行くとか、図書館で借りた人がこちらへやってくるとか、そういう交流がわからないんですけども。企画とかそういうことは、協調とか協定はないんですか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>毎年、この年間行われてる企画展をやりまして、今年は、さきほどから挙がっておりました寺山修司ですね。前年度でいきますと、温泉に関わる企画がありますが、図書館のほうも年間ずっとではないんですが、例えば、今であれば寺山修司の本を特集展示して、郷土文学館の企画展と連動するようなことを行っております。去年も秋ぐらいから、そういったものを行っています。ただ、我々のそういったものの発信というのが、図書館内での発信であったり、アップルウェブさんのラジオのコーナーで多少出してもらったりはしてるんですけど、それぐらいでなかなか広く伝わっていかないというのもありまして。今現在、連携してるのはそこのところだけです。今後はまたいろいろ、今日のご意見も参考に考えてまいりたいと思います。</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>今の発言に加えさせていただいて。昨年、建部綾足展のときに、弘前市立博物館と郷土文学館が連携展をしたときに非常に好評で。そうであれば図書館にも例えば建部綾足コーナーがあったりであるとか、市外とか県内とかの様々企画展なんかと図書館の本が連携していたら市民も親しみやすいし、展示に対する興味、関心も高いのかなど。富山に行ったときに、富山の図書館がそんな感じで、棟方志功まつりのとき、棟方志功の本の特集とか、市内のいろいろな文化施設でやっている特集の本コーナーなんかをつくっていて、すばらしいと思いました。</p>
議長	<p>ほかにご意見とかありますか。今の話題に関連するんですけども、いつも図書館に来て、観光館のほうに帰るときに、左側に郷土文学館への通路があるんですよね。ここを入れるような、迎え入れるかたちの造りにしたら、郷土文学館の来館者はもっと増えるだろうなど、いつも思っています。ただ、郷土文学館というかたちを考えると、正面から、外から入ったほうが落ち着きはいいなあというふうに、また思い返してみたりもするんですけども。入館者数のことを考えると、図書館側のあの通路を、あの暗がりのままにしておいていいのだろうか、ということをよく考えます。私自身、全然結論のないままに思っていることを申し上げましたけども、なにかしら検討課題としてもよろしいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>今回議案に上がらなかったんですけど、その無料化というのにも、もしかしたらその打開策があるのかな、というのは思ってはみたんですが、ただ、あまり触れられないところなので。</p>
委員	<p>入口はお店屋さんで一番大事なんですよ。なんかちょっと入りにくいイメージもあるし、観光館に来てこっちへ来るように、観光館とお互い連携したら、県外の人が文学館に入って来てくれる量が増えるんじゃないかと。なんか切れてるんですよね、あの空間で。どっちかというとなねふたのほうに行っちゃう。こちらのほうにも来て、コースでも矢印でもいいから書いてくれば、みんな回ってくれるんじゃないかと。博物館と提携して大きく散歩道をつくれれば回るんじゃないかと。藤田別邸まで入れてもいいですけど、コースをつくってあげる。そういうのをちょっと工夫しても面白いかなと思います。</p>
議長	<p>スタンプラリーとか。いろいろ考えられるかなあと思いますけれども。</p>
委員	<p>無料化がすごくいいような気がしますし、逆にフリーパス会員みたいな。図書館に協賛してくれる人に年間フリーパス会員みたいなのでつくっ</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>委員</p>	<p>て、会員だけその道、通れるとか。そこでお金とるんじゃないで。図書館とか郷土文学館を応援したいけれども、なかなか応援する手段とかがなくて。いろんな文学館だと協賛友の会みたいなのがあったりするけれども弘前はないんですか、とか、青森県立図書館とか県の近代文学館とかないんですかと聞かれるんですけども。行政との兼ね合いでなかなか難しいかもしれないんですけども。確かにあの通路は…面白いというのかな。どこの文学館と図書館だったかわからないんですけども、犬か猫の足跡がずっとついていて、こちらへどうぞ、みたいなのがあったり。ただ、昔に比べると郷土文学館の玄関も大変華やかになって、黒板が出ていたり、誘い込むような工夫がずいぶんされていて、昔に比べてすごく入りやすくなったという意見は聞いているので。そのへん、またバージョンアップして考えられるヒントがあるといいのかなと思いました。</p>
<p>議長</p>	<p>よく旅に出たり、仕事でいろんな街に行くんですけども、文学館を訪れますと、だいたいグッズを置いてるんですね。そこで必ず買うのが一筆箋ですね。そこに山梨文学館とか日本詩歌文学館とか、あるいは森鷗外記念館とか、絵と文字が入っている。それが記念になるから買うんですね。そのほかにも今はいろんなグッズが置いてまして。弘前は観光客の多い都市なので、文学そのものにそんなに深い関心がなくても、この文化都市に来たからなにか買って帰りたいという方は多いと思うんです。その時に、文学館に行ったらそういう小さなコーナーがあって買えるとなったら入館者も増えるし、来た方も楽しい思いをして帰れるんじゃないかなと思います。売り場は、文学館では狭いので、文学館に関連したグッズは図書館のロビーで販売してあげるといいのかなと思います。あのロビーはある程度活用できるのかなと思います。せっかく弘前市直営ではなくて、第3セクターの扱いになってますので、そういう販売も可能ではないかなと考えました。ご一考できるかどうかぐらいの一応回答を。</p>
<p>事務局</p>	<p>図書館流通センターという会社で、全国で受託してる中で、試験的に「TOSHOP」という、図書館の中に店舗を持つという実験、始めております。始まったという第一報程度で、くわしくはもっと調べないと、聞きに行かなきゃいけないんですけど。やはり今おっしゃったようにグッズはもちろんなんですが、例えば、地域のショップなんかも入ったりとか。そういった実験が始まっていると聞きましたので、もしかしたら今のお話とか、その路線で行けばなにか検討できるのかなというのは。参考にさせていただければと思います。</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

議	長	<p>前向きなご回答がありました。よその方に添え状を書くときに、弘前文学館とかの名前が書いた一筆箋があったらいいなと思います。</p>
委	員	<p>その点でいくと、去年横手に行ったときに、横手のまんが館というところが、グッズもすごいですけど食堂がすごくて。ここは日本でたぶん最初の漫画収集の記念館なんですけれども、漫画にまつわるメニューみたいなもの、食堂で出るんです。今、追手門の観光館のほうの食堂、空いていたりするけれども、そこの食堂とか。あと、関連グッズ。三浦綾子記念館なんかも、ものすごいグッズ収入があるらしくて、地元の六花亭とか地元企業と文学がタイアップしてつくったお菓子がものすごくたくさん売ってたりして。そういうのはつい買ってきて、お土産にしても喜ばれる。弘前市もこれだけ文学者がいれば。特に、太宰治ができれば、コラボして、大宮とかああいうところでもグッズ出していける。やりようによっては観光館まで文学館の力で、もしかしたら活性化できるものがあるのかなと。そういう観光で文学なんか盛り上がっているところは、必ずといっていいほどきちんと資料収集もしていて、きちんとした学芸員がいて研究者も満足できるなにかを持っていながら、そういう軽いこととして、という、二輪で動いているところがうまくいっている感じで見えてくるんですけれども、その方向性も含めたらいいなと思いますね。</p>
議	長	<p>なにかほかにご意見とかは、ご提案ありましたら。</p>
委	員	<p>文学館に来ていただく話が多かったので、外に出るほうが。例えば企画展とかやったときなんかパネルとかをつくったりしますよね。そのパネルなんかを学校に貸し出しする、いわゆるパネル展というものがあります。実は私たちの大学、青森県の近代文学館からお借りして、何回もずっとパネル展とかやって、好評なんです。ただ、コロナのことなんかがあって途絶えてるんですけど。やっぱり、外に出て行って知ってもらうこともあるといいかなと思って。昨日調べたんですけど、神奈川の近代文学館とかは非常に盛んにやってまして、ネットから申し込めるんです。もう少し小さめなところというのと釧路の文学館なんかも結構熱心にやってみたくて、結構できるなというふうに思うので、そのへんのことなんかを。実際のパネルの搬入だの片付けだのところで結構人手がかかったりするわけですけど、例えば大学なんかであれば、それは学生さんにやっていただくとか、いろんな方法あると思うので、そのようなことをご考へいただければと思います。来てもらうだけじゃなくてやっぱり外にプッシュ型で。なにか押し売りみたいですけど、そういうふうにやっていかないとかなかなか、全然興味がない人に興味を持って</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

委員	<p>らうことはできないので、自然に入ってしまうふういでしゃばっていくことは割と大事かなと思いました。同じことは、ネット上の情報展開なんかでもいえると思うんですけど、これはまた別の機会にと 생각합니다。</p>
議長	<p>いかがですか、今のご提案は。</p>
事務局	<p>企画展のときに使ったデータは残していますので、それを構成して、というのはできると思います。昔、近代文学館にいたときにパネル展をやって、県内の高校を回って。自分で車を運転して、今日は弘前高校、1週間経ったら中央高校と、そういう原始的な時代があったんですけど、さっきおっしゃったようなかたちでのやり方もできると思います。</p>
委員	<p>原始的なパネル実物のほうがやっぱりインパクトはあると思うので。あとは各大学のその学部のメインの玄関とか図書館に並べたりとか、いろいろ手はあると思って。高校生さんは難しいかもしれないが、大学生だったら車を持っている人もいるわけだから、保険のこととかかなにかさえちゃんとやれば、労力奉仕でできると思うので、そのへんは道はいろいろあると思ってはいます。</p>
議長	<p>確かにそうですよね。毎年パネルつくられるんですけども、結局その年で片付けられてしまうんですよね。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>
議長	<p>「岩木山と文学」をやったときに、私の詩をパネルにさせていただいて。あの程度であれば小さなトラックに乗っちゃうサイズなんですよ、文学館のパネルは。そういうものを、例えば柴田学園大学だと神無月祭のときにそういうコーナーをレギュラーで提供してもらって、パネルを並べてみるとかね。それは各大学で可能なことなのかなと、今、お話を聞きながら思いました。</p>
委員	<p>今、高校生1人1台、iPadがあるので、Zoomで櫛引先生の生の解説会を聞く、というのができないかなと目論んで、相談しようかなと思っていたところでした。本好きな子とか、郷土館とか文学館とかに行きたいんだけど足がないとか、青森のほうでもそうなので。せっかくZoomがあるので、先生がここにいらっしゃる中でつないで、生徒はつくったデータを何ページ何ページと見ながら。可能じゃないかなと、相談したいなと思ってたところなので。ぜひ実現してみたいなと思いますので、相談させてください。</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>郷土文学館という存在を知らない人が多いように感じます。だから、インターネットを通じてでもアピールできたらいいかなと。略称、郷文とかなんとかつくっちゃって。郷文ニュースでもいいですし、なにかそのへんのアピールがこれからもっと必要かなと思ったりもします。ほかになにか。</p>
<p>委 員</p>	<p>過去の企画展なんかでつくられたパネルは、終わるとやっぱり破棄とかたちに今はなっているんでしょうか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>もの自体は廃棄しますが、データは各展示ごとに保存しているという状況ですね。保管庫が非常に厳しい状況で、パネルなどを置くのもかなり制限されるので、データで残しておくということですね。今、福井緑さんの展示をやっているんですが、息子さんの福井次郎さんが、終わったならそのパネルとか、もし廃棄するんであれば自分のところで小さい展示コーナーを設けてやりたいとか、そういった話も出てるので。もしなんらかのかたちで、そういう利用したいということがあれば、それは事前にお話いただければ、いろいろな活用の仕方があると思っていますのですけれども。</p>
<p>委 員</p>	<p>今、ヒロロの中、それから土手町とかでも、結構空き店舗とか空きスペースなんかがあったりしますので、そういうところに出張文学館コーナーみたいなことをパネル使って、旅人がちょっと立ち寄って見れるスペースがあってもいいのかなとか。あとは、「岩木山と温泉」でしたか、温泉のパネルなんかもよかったし、岩木山の特集もすごくよかったので、ああいうのは本当に観光施設の一角に、しばらく飾ってもらっても楽しいのかな。場所にゆかりのある人、例えば寺山であれば偕行社とか秩父宮とゆかりがある場所であれば、お父さんが秩父宮の警護をした警官であるので、小スペースに何年間か飾ったあと捨てるとか。なにかすぐ捨てるのもちょっといざわしい気もする。あとは廃校なんかにとっておいて、使いたいときがあったら。県のパネル展の着想は最初、櫛引先生から始まっていらっしゃるので、そういうところと掛け合って何年間かは保存して使えるようにするとか。もちろん希望があれば譲るということも考えつつ、なにかいい活用の方法があればと思いました。ロピアの2階もガラガラなので、なにか欲しいという話もあって。あと、青森駅なんかはねぶたの歴史をパネル化しているけれども、前の展示を弘前駅のどこかの一角に飾るとか、アプリーズの空き店舗のところに飾らせてもらうことがもし可能なら、すごく旅人にとっても楽しいものになるかなと思いました。</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>前年度展示展みたいなのはできそうな感じですよ。1年間分はたぶん保管可能だと思うので、そう思いました、今のお話を聞いて。ほかになにかご意見、ご感想ありますか。</p>
<p>委 員</p>	<p>お墓参りというか、文学者のお墓いろいろあると思うんですよ、このへん。そういうところを回って歩くという、歩く文学忌。葛西善蔵が歩いた道とかね、なんとかの道というのはよくある。それを弘前でもつくっちゃってもいいし、伝というのつけてね。なにか雰囲気をつくって、最後はここへ来るというような道をつくっても面白いかなと。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>今まで文学散歩、いろいろやってきたんですが、残念ながらゆかりの地を歩くとか、そういった文学散歩をやって、それでおしまいであったんですけども。唯一、道というのをつけてるのが、文学館から出発して藤田記念庭園の前の一戸謙三の詩碑、それから博物館の裏の福士幸次郎の詩碑、それから公園を突っ切って仲町緑地公園の高木恭造文学碑、それは方言詩ロードという名前で、それだけは名前をつけてやっていたんですけども、他のもネーミングというか、そういうふうにとまた、定番となる可能性もあるのかなという感じを持ってました。</p>
<p>委 員</p>	<p>あんまりお坊さんたち、ここがお墓がありますといわないんですよ。33件の禅寺があるんだから、お墓のある人をちょっと調べれば面白いかなと。</p>
<p>委 員</p>	<p>墓ガイドをつくれればよさそう。墓参り女子みたいなのが何年前から。</p>
<p>委 員</p>	<p>御朱印でもいいですよ、文学朱印とか。楽しみながら文学を味わえるような。</p>
<p>議 長</p>	<p>お墓に限らず、郷土文学館が発行するかたちで文学散歩マップというのを制作して、あそこに行けばそういうマップが入手できるというかたちにするのがいいかなと思いますね。よく一人一人の作家をインターネットで検索すると出てくるんです。けども、それは地図の中にポイントが①とか表示されて、よく考えると大ざっぱなんですよ。先だって講演にいらっしゃった先生が葛西善蔵の文学碑を見たいというので、インターネットで調べると碓ヶ関に丸がついてるわけですよ。行けばなんとなかなるだろうと思って行ったんですけど、碓ヶ関の道の駅で聞いても正確には教えられないと。グルグル歩いてやっと見つけて、そういう探す努力もとても大事で感動はしたんですけども。どこの行政も、そういうものを発行してないんだなあということに気が付きましたよね。だか</p>

令和7年度第2回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録【要旨】

議	長	<p>ら、文学散歩自体は最初大ざっぱで、お一人ずつのところだけアップの囲みがあって、文学碑に間違いなくいけるような、そういう地図みたいなのがあればいいなと思いました。これは弘前市立郷土文学館で出してるのか、すごいな、みたいな感じになるといいなと思いますけども。</p>
委	員	<p>今のに被せた話ですけど、そういう文学散歩マップみたいなのを、それこそ全国高総文のときに、高校生と一緒につくったんですけども、それこそさっきの大学生なんかと一緒につくったら面白いかなと。</p>
議	長	<p>少しずつつくって行って蓄積していったらいいですよ。文学碑やお墓は逃げないですからね。</p>
委	員	<p>古い市立図書館の中にもいろいろマップがあったり、過去の文学散歩の経路図、つくった方もいらっしゃるけど、道が変わるとそれも変わっていくので、更新していかないとわからなくなるかなという気がしていました。</p>
議	長	<p>というご意見でした。ほかになにか。特になければこれで、少し予定より早いですけれども質疑を終了させていただきますがよろしいですか。この場でお尋ねになれなかった質疑については、さきほど事務局から説明があったように、意見等記入用紙にご記入いただき、事務局へ提出していただきたいと思います。これで、本日の議事はすべて終了いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。</p>